

# 世界の若者 山形奮闘記

～海外出身の山大卒業生～

第3回

## 私が感じた日本らしさ

株式会社エム・エス・アイ 甘 鵬臻



私の出身は中国の一番北の省都であるハルビン市である。「東方のモスクワ」、「東洋の小パリ」などといわれる国際色豊かな美しい都市だ。ハルビンの大学を卒業後、来日し、気がついたらあっという間に、日本での生活も8年目になっていた。日本に来た当初、言葉も全然通じず、不安に思うこともあったが、日本の皆さんが、私に親切に接してくれ、日本語だけでなく、日本の暮らしについてもいろいろな事を教えてくれた。心から感謝している。それでは、この8年間の日本での生活を通じて感じたことをご紹介します。と思う。

### ■日本は伝統と現代が融合した国

日本での時間が長くなれば長くなるほど、日本には、伝統文化と現代文化がうまく共存していることを深く感じる。外国文化を自由に受け入れながら、日本古来の伝統や感性を失わず、日本人特有の感性を保持していると思う。例えば、初めて東京の新宿に行ったとき、近代的な超高層ビルが立ち並ぶ街や多くの人でにぎわう繁華街に圧倒された。しかしその一方で、すぐそばに静かで落ち着いた歴史を感じさせる神社が存在していることに大変ショックを受けた。

伝統といえば、山形県を代表する伝統行事、花笠まつりも忘れてはならないものの一つである。私は毎年必ず家族や友人と見に行っている。現代的な街の通りで、みんなが民族衣装を着て「やっしょう、まかしょ」の掛け声とともに汗をかきながら一生懸命踊る姿には、日本人のチームワークの良さが感じられ、本当に感動する。

### ■万事入精

大学院を卒業してから、社会人として今年で6年目になる。日々の仕事の中で、一番感じられることは、やはり、日本人の「万事入精」という考え方だ。これは社内の本鶏会という勉強会で覚えた言葉である。何事もおろそかにせず、懸命に取り組む、誠心誠意尽くしていく。これは世界中の人々も勉強すべきところだと思う。会社での業務においても、お客さまとの接し方、姿勢、表情、言葉遣いといった、一つひとつの事にも心を込めることはとても素晴らしいと感じているし、日本は「ものづくり」の国であり、品質へのこだわりは最高だと実感している。昔からの職人精神と言われるものが、きっと日本人の心のどこかに内在されているのだろうと感じる。

最後に、日本と中国の間には残念ながらさまざまな未解決の問題がまだあるようだが、やはり、共に同じアジアに住み、同じ色の肌を持ち、同じ漢字を使っているという、永遠に縁が切れない関係にある。国際化時代を迎えた今日、相互理解がこれまでよりも一層求められていると思う。個人の力は微力だが、私も日中友好に少しでも貢献できればと考えている。

### 甘 鵬臻 (カン・ホウシン)

中国黒竜江省出身。

中国東北農業大学卒業後、山形大学大学院理工学研究科応用生命システム博士前期課程修了。

2010年株式会社エム・エス・アイ入社。